

仙台楽生園ユニットケア施設群の地域福祉拠点としての取り組み ～葉山地域交流プラザの活動～

仙台楽生園ユニットケア施設群は、昭和62年に開設した特別養護老人ホームを平成17年に増築し、全ての事業所が10人前後の家庭的なユニットケア方式を取り入れ、介護保険10事業を包括する『地域密着大規模多機能』と言うちょっと変わったコンセプトの高齢者総合福祉施設である。さらには都市型地域密着コミュニティの構築を目指して、葉山地域交流プラザを設置し、施設開放事業を基本に、地域交流事業、地域支援事業、地域育成事業等を行っている。

社会福祉法人

仙台市社会事業協会

〒981-0917 宮城県仙台市青葉区葉山町8-1

TEL: 022-273-4920/FAX: 022-273-8510

◆ 法人の概要

法人設立年：昭和3年6月7日

財団法人認可：昭和10年4月8日

社会福祉法人認可：昭和27年5月14日

経営施設、事業（数）：27施設・事業

経営施設、事業（種別）：

特別養護老人ホーム…1箇所、養護老人ホーム…1箇所、デイサービス…2箇所、認知症デイサービス…2箇所、居宅介護支援事業所…2箇所、グループホーム…1箇所、ケアハウス…1箇所、訪問看護ステーション…1箇所、訪問介護事業所…2箇所、地域包括支援センター…1箇所、老人福祉センター…1箇所、地域交流プラザ（センター）…2箇所、保育園…3箇所、母子生活支援施設…2箇所、理容美容学校…1箇所、駐車場…1箇所等

◆ 法人の理念・経営方針

【理念】

- ①多様な福祉サービスが、利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫する
- ②利用者が個人の尊厳を保持しつつ心身ともに健やかに育成されるよう支援する
- ③その有する能力に応じ自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援する

【経営方針】

- ①社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を、確実、効果的かつ適正に行なう
- ②自主的に経営基盤の強化を図るとともに、事業経営の透明性を確保する
- ③提供する福祉サービスの質の向上並びに地域福祉の推進に努める

◆ 実施施設の概要

施設名：

仙台楽生園ユニットケア施設群（特別養護老人ホーム仙台楽生園、仙台楽生園短期入所事業所、楽園デイサービスセンターいこい・なごみ、グループホーム楽庵、ケアハウス創快館、葉山地域交流プラザ、葉山ヘルパーセンター、葉山訪問看護センター、葉山ケアプランセンター、葉山地域包括支援センター）

施設種別：

特別養護老人ホーム 90名、ショートステイ 20名、デイサービス 10名 他2、グループホーム 9名、ケアハウス 10名 他

活動開始年：平成17年12月1日

活動の頻度・時間：

【施設開放事業】…週6回開催（月曜定休日）

・喫茶レストラン「茶楽」・理容室・美容室「ggバーバー・美楽る」・葉山の森おもちゃ図書館・葉山ボランティア活動センター・葉山予防・リハビリセンター・準天然温泉展望風呂「天空館」

【地域交流事業・地域支援事業・地域育成事業】

・ボランティア行事…毎月15日前後開催・地域交流イベント…毎月1回開催・らくらくサロン…毎月1回開催・見々学々講座…毎月1回開催・子ども交流会…毎月開催・楽々健康塾…週1回開催（お気軽運動コース）随時（パワーリハビリコース）・元気応援教室…運動器の機能向上：週2回開催腔機能の向上：月2回開催など・葉山クラブ…月1回の定期活動と年2回の野外活動・乙女会…週1回、随時

・気楽だネット…隔月開催、随時

活動の対象者：

利用者及びその家族、地域住民、特定高齢者、障害児、乳幼児など

活動実施の背景、実施にいたった理由

国の施策、高齢者福祉サービスの多様化に鑑み、社会ニーズに即した良質で継続的な福祉サービスや、利用者が望む生活の実現及び人権に配慮した認知症高齢者にもやさしい介護サービスを提供することとなった。また、リハビリや介護予防、さらには施設サービスと在宅サービスを統合した多機能で総合的な地域福祉サービスを提供し、誰もが安心して生活できる地域福祉の拠点作りを、他に先駆けて実施することとなった。これまでの集団介護からより小規模のユニットケア方式に転換することにより、一人一人の顔が見える介護を提供し、施設サービス、在宅サービス、介護予防を包括した地域のセーフティネットの構築を目指す。そのためには町中の施設としての特徴を生かし、施設や地域に閉じ籠りがちな利用者の相互交流を図りながら、ご本人の希望に応じて相談・訪問・通所・入居などの様々なサービスを提供できる施設整備を行なった。

仙台楽生園ユニットケア施設群は、昭和62年に開設した特別養護老人ホームを平成17年に増築し、全ての事業所が10人前後の家庭的なユニットケア方式を取り入れた。介護保険10事業を包括する『地域密着大規模多機能』と言うちょっと変わったコンセプトの高齢者総合福祉施設が完成した。さらには都市型地域密着コミュニティの構築を目指して、葉山地域交流プラザを設置し、施設開放事業を基本に、地域交流事業、地域支援事業、地域育成事業等を行っている。

具体的には、以下の事業である。

実施内容

【施設開放事業】…施設内2階には葉山地域交流プラザがあり、地域住民の方も気軽に交流できるように各種設備を開放し、以下の6事業を展開している。

①ボランティア活動センターは、ご利用者と地域の方々と繋ぐ「架け橋」として様々なボランティア活動の支援を行っている。現在、23組の団体ボランティアと、約65名の個人

ボランティアが活動している。

- ②予防・リハビリセンターは、マシーントレーニングの他、体操や日常動作訓練などを行い、健康づくりに、友達づくりに、介護予防にと様々な活用いただいている。
- ③おもちゃ図書館は、SLの模型が走るプレイルームがあり、様々なおもちゃ、絵本、懐かしの郷土玩具等を展示する他、それらを使用しての伝承遊びなど世代間交流の場となっている。
- ④喫茶レストランは、ケーキやコーヒーの他、パスタやピラフ等の食事も提供し、利用者、家族、地域の方々が一緒に楽しい時間を過ごせる憩いの場となっている。
- ⑤理容室・美容室は、ご利用者や地域の方に、美しさ・若々しさを低料金にて提供している。
- ⑥最上階6階の天空館は、男女別に入浴できる鉱石を入れた準天然温泉の展望風呂をはじめ、露天風呂、寝湯、足湯、檜風呂、サウナ等があり、利用者、家族、地域の方々が交流を図りながら入浴している。

【地域交流事業・地域支援事業・地域育成事業】

…地域交流事業として様々なイベント開催の他、地域支援事業として自主グループの支援、地域育成事業として講座や教室等も開催している。

- ・ボランティア行事…民謡・生花・舞踊・書道・紙芝居・三味線・カラオケ・ギター・コーラス・ドラムサークル・フラダンス・ハワイアンバンド・三原色貼り絵・アートセラピー・ハンドマッサージなど様々な活動を二日に一回程度行い、利用者を楽しんでいただくと共に、地域住民の活動の場ともなっている。
- ・地域交流イベント…交流プラザ内のアクティビティーホールや交流ラウンジを会場として、地域の方々にも参加いただくコンサートやショーなどの大きなイベントの開催。
- ・らくらくサロン…楽しみを通じての気軽にどなたでも参加できる交流の場、仲間づくりの場として実施。絵手紙、貼り絵、押し花、百人一首、ステンドグラス、茶話会など。
- ・見々学々講座…どなたでも参加できる一般向けの講座。頭の痛くなるような勉強ではなく、知って得する知識や情報を提供することを目的に実施。介護保険、地震対策の講座等。

- ・気楽だネット…地域住民がいつでも気軽に施設を利用し、様々なイベントを通じて楽しく過ごしていただくことを目的に実施。地域住民の力を発揮できる場にしていただくことを目的に結成された地域のネットワークである。
- ・楽々健康塾…葉山予防リハビリセンターにて、体操教室の他、介護予防や健康のお手伝いを目的とした塾を開催。お気軽運動コース、パワーリハビリコース等。
- ・元気応援教室…特定高齢者を対象に3種類（運動器の機能向上、口腔機能の向上、栄養改善）の介護予防プログラムを実施。
- ・こども交流会…おもちゃ図書館にて、核家族で祖父母のいない子供たちと、子供の大好きな施設利用者が一緒に集い、歌やゲームで世代間交流を図っている。
- ・乙女会…一人暮らし女性の自主グループ活動。マイ箸、マイエプロン持参で来所して、食事会、ボランティア活動、お茶会等を実施。
- ・葉山クラブ…地域にお住まいの高齢者を中心に活動している自主グループである。年2回の野外活動と月1回の定期活動を通して、閉じこもり予防やメンバー相互の交流、生きがいの支援を行っている。

活動効果

これまで福祉施設は、地域の人にとっては敷居が高く、入っていいものかどうか迷ってしまうような場所であった。しかしここでは、定休日の月曜以外は毎日営業している喫茶レストラン「茶楽」を始め、理美容室、展望風呂など、格安の料金で地域の人が自由に利用できる様々なイベントも含め、地域の人、ご家族、利用所が一同に会すので、自然に交流が図れるようになった。地域の方が老後について知らず知らずのうちに考えるようになり、地域資源の発掘にも繋がっている。

利用者の家族からしても、これまで福祉施設は敷居が高い場所に感じられ、面会に来てもらうのが大変だった。しかしここでは、「祖父が入所していて家族で来所した場合…息子は面会、祖母は予防リハセンターで体操、嫁は美容室でパーマ、子供達はおもちゃ図書館で遊び、その後、祖父はフロアの食事をキャンセルし家族で『茶楽』で食事、その後、男女に分かれて展望風呂で汗を流す。」というように、家族が丸一日居

ることができる施設（空間）として機能している。そのため利用者の家族の来所も大きく増えた。

サービスを利用する（しようとしている）方からしても、福祉施設そのものが何か解らなかったり、どこに相談をしてどのサービスを利用すれば良いか分からなかった。しかし、ここでは、相談から介護予防、在宅、施設サービスまで全て揃っており、元気な高齢者や特定高齢者、さらには認知症高齢者など、軽度から重度になっても対応できるので安心感がある。家族や地域の方が集う開かれた社会であり、利用者からの満足度も高い。

施設開放事業の他に、様々な地域交流イベントや介護予防教室、サロン活動、教養講座、自主活動グループの支援まで、幅広く地域福祉事業を展開し、家に閉じ籠りがちな方々にも施設機能を還元したことと、ご家族や地域住民が元気なうちから自然に集える空間を構築したことで、葉山地域交流プラザの1年間の延利用者数は約2万人にも上っている。

今後の課題

以上のように、様々な地域福祉事業に取り組んで来たが、まだ地域の福祉拠点とは言えない。ようやく仙台楽生園ユニットケア施設群及び葉山地域交流プラザが地域住民に周知されつつある段階である。また、多くの方々に来所していただけるようにはなったが、地域に出向いての活動はまだ少ない。①知る②来るは、ある程度達成できたが③行く④交わるは、これからである。

地域行事・活動への参加やボランティア・サポーターの養成、地域ネットワークの構築が今後の課題である。今後増加する認知症高齢者が安心して暮らせる「認知症ネット」、障害者も健常者も共存できる「共生ネット」、災害時に施設と地域と相互扶助できる「防災ネット」の構築が最重要課題である。

これからの福祉は、公助と自助だけでは成り立たない難しい時代となっており、地域と施設の力を結集した共助が何より大切になる。仙台楽生園ユニットケア施設群では、地域の皆様がいつでも集える、ご家族がずっといたくなる、ご利用者がここに来てよかったと思える、「自分のいえ」、「一つのまち」として楽しめる安らぎの空間作りと、施設サービス・在宅サービス・介護予防を包括した、誰でも安心して暮らせる地域のセーフテ

ィネットの構築を目指していく。

